

# 空洞現象との相似性に関心



真空技術を用いて地下水水位下げたり軟弱地盤の圧密を促進させるスーパールポイント（SWP）工法の講演会が26日、山口県宇部市の山口大学工学部同窓会館「常盤工業会館」で開かれた。同工法関連の休眠特許などを対象に、土木関係だけでなく幅広い技術開発を目的に組織しているスーパールポイント研究会が主催したもので、地盤関連業者やゼネコンなど全

## SWP研究会が工法講演会

国から約50人が参加した。写真。キャビテーションは大きな注目を集めた。特に、液体の流れ

真。講演会は、山口大地盤工学研究室のメタンハイドレート実験装置を見学した後、佐賀大自然科学域理工学系教授の日野剛徳氏、不動テトラ地盤事業本部技術部の原田健二氏、元海洋研究開発機構の小林照明氏、山口大学大学院准教授の森啓年氏、同特命教授の兵動正幸氏らが圧密促進の対象となる粘土の状態諸量についての考察を始め、飽和砂地盤の液化化対策の変遷、メタンハイドレート海洋産出試験に使われた地球深部探査船「ちきゅう」の稼働、河川堤防の被災と対策など講演し、その発表領域でのSWP工法の有効性に期待を表明した。

キャビテーションは大きな注目を集めた。特に、液体の流れの中で圧力差により短時間に泡の発生と消滅が起きる、空洞現象とも呼ばれるキャビテーション現象とSWPがもたらす効果の相似性が、同工法の応用拡大を示唆しているとの指摘について関心が多く寄せられ、さらなる技術開発を予感させた。

### 事業計画など承認

スーパールポイント協会（高橋茂吉会長、特別・正・賛助会員24社）は同日、山口県宇部市の常盤工業会館で第18回通常総会を開き、令和元年度事業計画など上程議案すべてを承認した。施工・技術委員会が技術情報やデータの収集・分析などを行うほか、災害復旧や地すべり対策などへの利用技術の検討、木材などの真空気化利用など

また、SWP工法の考案者で普及のための協会と研究会の会長を務める高橋茂吉アサヒテック社長が発表した「負圧伝播と